

令和5年度 大塚賞受賞者一覧

(氏名、所属学院名、学位論文題目名)



清水 紀子

SHIMIZU Noriko

法学研究科

再考 医薬品の特許権存続期間延長登録制度－2016年以降の運用の検証－



飯塚 睦

IIZUKA Mutsumi

環境科学院

最終間水期におけるウィルス海盆の氷床と南大洋高緯度の変動に関する研究



遠藤 優

ENDO Yu

理学院

ゲノム解析に基づく北海道を中心としたヒゲマ个体群における雌雄の分散様式の違いが長期にわたって集団史に与えた影響



神野 智世

JINNO Chiyo

生命科学学院

陸上植物の多細胞化の鍵を握る原形質連絡を作り出す新奇因子の発見とその分子機構の解明



曾 怡

ZENG YI

保健科学院

学童期におけるリン系難燃剤曝露とアレルギーとの関連



安田 佳永

YASUDA Kae

保健科学院

高齢患者の末梢静脈留置針挿入部位における温筆法の安全性と静脈拡張効果



川向 ほの香

KAWAMUKAI Honoka

総合化学院

分子シャペロンによる天然変性タンパク質の分子集合制御メカニズムとその破綻



許 開軒

HSU KAI-HSUAN

文学院

近世日本のニワトリ利用に関する動物考古学的研究



佐藤 紫乃

SATO Shino

情報科学院

希薄窒化GaNA_s量子井戸－InAs量子ドットトンネル結合ナノ構造の電子スピンドYNAMICS



孔 曉涵

KONG Xiaohan

情報科学院

パイボラ永久磁石型低磁場MRI装置の設計最適化に関する研究

大塚賞授与式が挙行されました

3月19日(火)、本学事務局において、北海道大学大塚賞授与式が挙行されました。

大塚賞は、本学における男女参画事業の一環として、研究者を目指す優秀な女子学生育成のため、2005年(平成17年)に設けられた奨励金制度です。大学院博士課程を当該年度内に修了し、研究者を目指す優秀な女子学生に授与されるもので、今回は、学院長(研究科長を含む)からの推薦をもとに審査によって選ばれた10名が受賞しました。

授与式には資金清博総長、大塚榮子名誉

教授、山口淳二理事・副学長、矢野理香ダイバーシティ・インクルージョン推進本部副本部長、平田公明学務部長列席の下、資金総長より賞状が授与され、「大塚先生や、歴代大塚賞受賞者の方たちのように、研究者として着実に歩を進め、同じ道を目指す後輩たちの目標となっていたきたい」とのお祝いの言葉が述べられました。

これからも、研究者を目指す多くの女子学生が受賞されることを期待しております。



大塚賞交流会
を行いました

DEI推進本部では、授与式終了後に行われた、受賞者と大塚名誉教授、過去に大塚賞を受賞された本学教員との交流会を企画・実施しました。

交流会では、各受賞者が博士課程での研究テーマと今後の予定やキャリアプランについて発表しました。各受賞者が作成された動画「受賞者の声」を事前に視聴されていた大塚先生からは、「受賞者の発表のスキルが年々向上していると感じています。これからも研究成果発表やアウトリーチ活動において、情報発信能力を存分に発揮してほしい」とのお言葉がありました。また、「大塚賞OGの方から声を掛けられるのが大変嬉しい」との一方で「女性教員が増えないことが悩みの種」ともお話され、受賞者の今後の活躍を期待する激励のメッセージをいただきました。さらに、過去受賞者であるOGの先生方からは、「受賞した時には(現職位の)教授になるとは夢にも思っていなかった」「ライブイベントと研究の両

立に困難を感じることもあるが、大塚賞を受賞したことが心の支えになっている」「しなやかに色々な壁を乗り越えて活躍してほしい」などのお言葉をいただきました。

軽食を摂りながらリラックスした雰囲気の中で、大塚先生と優秀な若手研究者である受賞者、OGの先生との貴重な懇談の場となりました。それぞれが大塚先生と直接お話をする貴重な機会となり、さらには受賞者同士のネットワークの広がりにも繋がったようでした。

交流会全体を通して、女子学生に対して多様なキャリアパスとロールモデルを提示することができ、大変盛会のうちに終わることができました。



TOPIC

女子学生キャリアパスイベントを開催
「Woman's Career Canvas ～女子学生が描くキャリアの未来図～」

2月13日(火)、DEI推進本部と、大学院教育推進機構、共同プロジェクト拠点 共創教育センターとの共催で女子学生を対象としたキャリアパスイベントを本学オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」で開催しました。女子学生・大学院生の博士進学支援を目的に実施したもので、約20名の参加がありました。グローバルに活躍する卒業生や教員、博士課程在籍中の先輩方のお話の後、「女子大学院生の未来図」をテーマにパネルディスカッションが行われました。参加者は、先輩方のキャリアパスについてのお話や学生の皆さんに向けたアドバイスに熱心に耳を傾けていました。

詳細はこちらから

www.dei.hokudai.ac.jp/archives/23868/

COLUMN

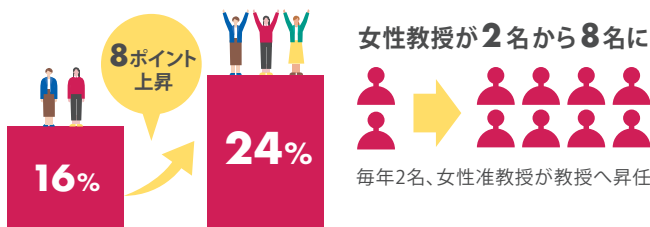
THEME

文学研究院の女性教員・女性教授増加への取り組み

令和3年12月に発出された「北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」を受け、文学研究院では准教授以上の女性教員及び女性教授の増加策に取り組んでいます。第4期中期目標期間における中期計画として、「准教授以上の女性教員比率25%を目標に、女性教員の比率を上げる。特に女性教授の比率を20%にする。」と定め、その実現のために「女性限定の採用人事を実施する。また昇任人事とあわせ、毎年最低1名は女性教授が増えるようにする。」という施策を実施することとしました。なお、この施策は任期なしの専任教員についてのものです。

この方針のもと、令和5年度と6年度の採用人事において、各1名の女性限定公募を実施し、いずれも大変優秀な方を採用することができました(令和4年に実施した女性限定公募は本学では初めてとうかがっています)。この施策による波及効果として、部局内での

文学研究院 講師以上の教員の女性比率 (令和4年度3月～令和6年度4月)



ジェンダーバランスに対する意識が高まりつつあり、令和5年度採用の准教授・講師5名(いずれも任期なしポスト)のうち3名が女性、令和6年度採用の同職位7名のうち5名が女性(うち1名は女性研究者アンビシャステニュアトラックに採用されており、それ以外は任期なしポストで、その中に外国籍の方2名を含む。)でした。これにより、令和4年3月時点で16%ほどだった講師以上の教員の女性比率が令和6年4月時点では24%余りとなり(女性研究者アンビシャステニュアトラック採用者1名と再雇用の特任教授以外は任期なしポスト)、着実に女性教員が増えていきます。令和7年度の採用人事においても1名については女性限定公募(任期なしポスト)を実施することとしています。

教授職については、令和4年度から6年度まで毎年2名の女性准教授を教授に昇任させることにより、令和4年3月時点でわずか2名であった女性教授が令和6年4月時点で8名に増え、教授全体に占める女性比率も4%未満であったものが14%を超えるに至りました。

本研究院が教育を担当している文学部・文学院は、学生の女性比率が5割前後とバランスがとれており、教員の女性比率の偏りを解消する努力をさらに続けねばならないと考えています。

WRITER 前文学研究院長 藤田 健

NEWS

詳しくはこちらから

CONTACT US



北海道大学
ダイバーシティ・
インクルージョン推進本部
Office of Diversity, Equity,
and Inclusion

公式ウェブサイト
www.dei.hokudai.ac.jp

Email— office@dei.hokudai.ac.jpオンライン
公開中

大塚賞受賞者の声(学内限定動画)

DETAIL

www.dei.hokudai.ac.jp/archives/22304/申請締切
11/29

募集中

ダイバーシティ・インクルージョン推進に向けた
部局等による取組支援プログラム

SUPPORT

支援内容:旅費・謝金等 上限15万円
www.dei.hokudai.ac.jp/archives/24176/

